

立志式

南中生19名が志を立てました



南中生が町の未来を考える／ みらい南小国子ども会議

南小国中学3年生が町のことについて考え、意見をまとめ、町執行部や議員に提案する
みらい南小国子ども会議が12月13日に開催されました。今年は代表の6つの班が
提案をしてくれました。各班の提案内容を要点を絞ってご紹介します。



農畜産業に支援を！

農家や牛飼いが減少し、荒れた田んぼが目立っている。美しい景色を守るためにも現状を改善したい。そのために3点提案。

- ①毎年1度は補助金を出す
- ②WCS（稲発酵粗飼料）を広める
- ③収穫体験やエサやり体験をできるようにし牛飼いや農業の魅力を広める



答弁：農林課長
昨年度と今年度は全農家さん対象の補助金を出した。農業の魅力を広めるためにも農家さんの話を聞いて情報を出したい。

健康ランド建設を！

町の大きな課題は少子高齢化。住民の健康維持のために、温水プール、ジム、温泉、特産品を使ったカフェがある「健康ランド」を建設してはどうか。

子どもも安心して使えれば、世代を超えた交流ができ、住民が繋がれる。AIを導入し、トレーニングメニューを選択できるようにしては。



答弁：町長
A マート跡地の利活用では“繋がる”ことを一番大切にしたい。今後の役場のあり方を考えた際にもAI導入は必須。

全ての人に寄り添う避難所を！

現在の避難所は、避難する人も避難所の数も少ない。避難する人が増えるためにも、避難所をより良くするためにも、3点を提案する。

- ①非常食を見直し、質と量を高める
- ②避難場所の充実
- ③みなみちゃんねるで防災コーナーを作るなど町民の防災意識を高める取り組み



答弁：総務課長
非常食は毎年100万円分購入し循環備蓄している。消防署OBの職員が地区に出向き、地域に合った防災活動をしている。



伝統文化の魅力を伝えるために！

南小国特有の伝統文化の魅力を伝え、残したい。そのためにできることは何かを考えた。

- ・ SNS を活用した魅力発信
- ・ 予算の充実
- ・ 後継者不足解消のため、教育の一環として小学校区の垣根を越えた伝統文化を体験できるようにする



答弁：教育長
SNS は有効だと思う。予算はわずかだが補助金を出している。体験の場は地域の方と相談したい。後継者は教育の場で育てたい。

人が集う町にするために！

南小国の美しい景観や観光スポットの魅力を多くの人に知ってもらい、観光の町として発展して欲しい。そのために、景観が売りの場所に食事や買い物ができる休憩施設を作り、小道具やカメラを貸し出し、記念撮影できるようにしては？ SNS で発信してもらえ、滞在時間も長くなるのでは。



答弁：まちづくり課長
町の景観を活かし、町内で完結するのは理想的な観光スタイル。ぜひ皆さんが役場に入庁し、提案したことをカタチにして欲しい。

みんなに優しい観光の町へ！

障がいがある方や足腰が不自由な高齢の方、妊婦さんや子ども連れの方が南小国に観光で訪れたいと思えるようになれば、観光客数が増え、町の発展に繋がるのでは。そのために

- ・ 観光地のバリアフリーの強化
- ・ 情報の開示

が必要ではないか。



答弁：下城議員
押戸石の丘もバリアフリー化したい。既にバリアフリー化しているスポットを町ホームページに掲載しても良いのではないかと。

〈前田博治校長先生より〉 南中生3年生が6グループに分かれ、ふるさと南小国町の発展のために提案をしました。今回の内容は、**課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現**という学習サイクルの中で練り深められたものです。この一連の学びには、これまでさまざまな教育活動の中で培われてきた南小国町の創り手となるための資質・能力である4C※が生かされています。今回の提案が今後のまちづくりに少しでも貢献できればと思っています。

令和5年12月
第4回定例会

12月定例会が12月12日から14日の会期で開催。条例の設置・廃止・一部改正・補正予算など（条例6・予算7・その他1）が審議され、すべて原案通り可決された。

令和5年度12月補正予算

総額3億1471万円を可決

	12月補正額	補正後予算総額
一般会計	2億2896万円	61億6502万円
特別会計	8575万円	18億266万円

*千円未満四捨五入のため合計額が一致しない場合があります。

● 一般会計補正予算（第8号）
（全会一致）

主な審議

○小国郷コミュニティバス
▼森永議員 無料運行する目的は。
【答】 通称「にじバス」は冬季（1～3月）は利用者が少ない。期間限定（3月29日まで）で無料運行するこ

とにより認知度を高め、利用促進につなげていきたい。
○先進地視察について

▼穴井秀房議員 公共交通の先進地視察はどこに行かれるのか。
【答】 令和2年11月より、公道で自動運転バスを運行している茨城県境町。開始して3年が経ち、成果や課題等を見てきたい。また境町は子育て支援にも力を入れているので、併せて視察したい。

○部分林売払収入
▼穴井則之議員 内訳等は。（組合名・全伐／間伐・収入額）また全伐後の対応は。
【答】 収入に対して8割を交付する。（本町造林組合・全伐・106万円／竹の熊造林組合・間伐・218万円／上中原造林組合・間伐・37万円／赤馬場区・全伐・90万円）森林組合の事業を活用し、広葉樹を植栽して町に返還していただく。

▼穴井則之議員 急傾斜地等は広葉樹が望ましいと思うが、生産性や脱炭素へ向けてはスギ・ヒノキの植栽も考慮して欲しい。
○制服等購入業務委託料
▼佐藤議員 対象人数や支

給対象品等は。

【答】 新1年生が34名分（制服・シャツ・スクールセーター・通学用靴・鞆・体育館シューズなど一式で約10万円）、新2年生が28名、新3年生が19名分（制服・シャツ・スクールセーターの3点で約7万円。）
▼井野議員 どのような制服になるのか。委託先は。
【答】 上着は小国高校と同じデザインのブレザー。（ワッペンは南中独自のもの）スラックスやスカート、シャツはオリジナルのもので、ネクタイやリボンも選択制を考えている。委託先はメーカーや町内衣料品店と協議を行っていく。



来年度変更される南中の制服

○R212号通行止委託料
▼穴井則之議員 委託料計上の理由・内容は。
【答】 阿蘇市より春の野焼きの際、阿蘇市側で通行止めをしたい旨の申し入れがあつている。南小国町側でも

交通整理等必要と考え、シルバー人材センターや警備会社への委託を考えている。
▼穴井秀房議員 昨年はいろいろと混乱があったのではないかと。周知等に十分注意を払って欲しい。
○旧グループホーム森園
▼森永議員 購入後の利用目的は。
【答】 高齢者の方が長年住み慣れた町でこれからも住み続けられるように、小規模多機能施設が良いのではと考える。

一般会計 主な補正予算

	(万円)
不動産購入費（旧グループホーム森園）	2779
価格高騰重点支援追加給付金	4060
住民記録システム改修業務委託料	574
民間賃貸住宅確保プロジェクト補助金	522
町道維持工事	1550
町道舗装工事	1300
制服等購入業務委託料	735
災害復旧費	8630

● 条例
◆南小国町簡易水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例
（全会一致）

主な審議

▼北里議員 水道・下水道関係、現在の基金残高は。
【答】 水道（2273万円）農業集落（1239万円）特定排水（642万円）公共下水（3910万円）。
▼穴井秀房議員 公営企業会計に移行した場合、基金はどうなるのか。また赤字になった場合の考えは。

【答】 令和6年4月1日以降は基金は持たない。出資金的な取扱いになるのでないか。独立採算が原則。しかし全て使用料に転嫁させるのは厳しいと認識している。
▼穴井秀房議員 町民の過度な負担とならないようにお願いしたい。

◆南小国町自然休養村管理センター設置条例の廃止
（全会一致）

主な審議

▼穴井秀房議員 管理センター解体後の土地利用は。
【答】 駐車場としての利用を考えている。

▼穴井秀房議員 JA跡地が無くなった場合、面積的に足りないのではないかと、必要台数の試算等早めに行っていたら良かった。
▼佐藤議員 管理センター

解体からJA跡地開発に係るタイムスケジュールは。

【答】 解体は補助金を活用し、令和6年12月完了予定。JA跡地については6年度は情報収集・合意形成に努め、7年度着工を目指したい。

▼下城議員 概算工事は。【答】 現在交付申請中、工事が約8400万円。補助金がその2分の1。

▼後藤議員 今後、資材高騰・物価高騰の影響を受け、工事費の増額が考えられる。その際は十分な説明を。

【答】 詳細設計はこれから。状況によっては、工事費の増額により補正予算の必要性も考えられる。根拠を示しながら対応していきたい。

◆南小国町奨学資金貸与条例の一部を改正する条例

賛成多数

【主な審議】

▼井野議員 町の将来や国を背負って立つ子ども達のために、給付型は考えなかったのか。

【答】 職種や職業、給付条件等の制度設計で苦慮した。

▼井野議員 必ずしも町内での就職・居住を給付の条件にする必要はないので

は。軽減措置等は。【答】 やはり選考基準や給付・免除条件のところで迷いがあつた。庁舎内の子育てプロジェクトチームでも検討を始めたところ。今は時期尚早と考える。

▼佐藤議員 金額等の設定根拠は。【答】 日本学生支援機構を下回る額に設定。返還期間は貸与期間の2倍から3倍に変更した。

▼佐藤議員 学生支援機構と同等の条件で良かったのでは。(例・私立大学・自宅外・最高6万4000円・返還期間 最大18年)

【答】 選考委員会でいろいろと議論した。生まれる前から20歳位までの方に対して、何が足りないのか不足しているのか精査している。アイデアが出てきたらどのような形が一番良いのか、何が子ども達の夢の実現につながるのか相談させていたいただきたい。

【反対討論】

▼佐藤議員 金額が上がること返還期間が延びることは非常に良いと思う。しかしこの改正では不十分。町の本気度をもっと伝わるよ

うな改正案が出てきても良いのではないかと。

12月定例会 (12月12～14日) 採択結果

議案番号	事件名	採決結果	下城孔志郎	北里桂一	佐藤毅	森永一美	井野和哉	後藤六男	六井秀房	六井則之
議案第95号	南小国町奨学資金貸与条例の一部を改正する条例の制定について	可決	○	○	×	○	×	○	○	○

○…賛成 ×…反対 ※賛否の分かれた案件のみ掲載。

●国保特会補正予算(第3号)

【主な審議】

▼森永議員 療養給付費・高額療養費増額の理由は。【答】 高額な医療に該当する案件があり不足が生じた。

うな改正案が出てきても良いのではないかと。

●水道特会補正予算(第4号)

【主な審議】

▼北里議員 黒川から田の原を経由して波居原まで仮設管で導水していると思うが今後の予定は。【答】 波居原地区の仮設管については既に5年が経過し、水道事業においては優先順位をつけて行っているがご迷惑をおかけしている。現段階では仮設管から本管理設へと考えている。

▼北里議員 水道管の老朽化に伴う漏水対策の現状は。【答】 水道管の耐用年数が過ぎた部分、過去に漏水が多量発生した箇所等を優先して実施していきたいと思うが、漏水が発生してから修繕を行っているのが現状。今後の課題と認識している。

▼井野議員 今回の市原地区の試験調査、当初予算で中原・満願寺西地区の水源

地調査を予算計上しているが、今後どのように整備していくのか。【答】 水道事業は全体的な見直しを行っている。市原地区は維持管理に課題があり、配水池の近くに水源を確保するのが良いと思う。国の変更認可等を取得する必要があり、調査結果を踏まえ、優先順位・緊急度を精査し実施していきたい。

▼井野議員 水源(地下水)の確保で動いていると思うが、河川からの取水は考えられないのか。【答】 浄化施設の建設や維持管理に多額の費用(ボーリングの場合の約3倍)がかかる。水質の面も含めて地下水の方が有利。

水道特会 主な補正予算 (万円)

水源地さく井試験調査業務委託	4278
新規水源さく井試験調査に伴う関連工事	967
修繕料	200
消費税	196

区の試験調査、当初予算で中原・満願寺西地区の水源地調査を予算計上しているが、今後どのように整備していくのか。

【答】 水道事業は全体的な見直しを行っている。市原地区は維持管理に課題があり、配水池の近くに水源を確保するのが良いと思う。国の変更認可等を取得する必要があり、調査結果を踏まえ、優先順位・緊急度を精査し実施していきたい。

▼井野議員 水源(地下水)の確保で動いていると思うが、河川からの取水は考えられないのか。

【答】 浄化施設の建設や維持管理に多額の費用(ボーリングの場合の約3倍)がかかる。水質の面も含めて地下水の方が有利。

Q ポイント事業で元気な町に！

A 検討協議を始めていく

問 行政視察に行った山梨県小菅村では、買物だけで

町長 今後一緒に仕組み等を考えていく。

問 楽天との事業連携協定の中で、ポイント事業の協議予定は。

町長 今後は12名が応募されている。

町民課長 応募者は令和3年度8名、4年度6名、5年度は12名が応募されている。

問 現在実施されている健康づくりポイント事業の状況は。

町民課長 応募者は令和3年度8名、4年度6名、5年度は12名が応募されている。

問 楽天との事業連携協定の中で、ポイント事業の協議予定は。

町長 今後一緒に仕組み等を考えていく。

問 現在実施されている健康づくりポイント事業の状況は。

町民課長 応募者は令和3年度8名、4年度6名、5年度は12名が応募されている。

問 現在実施されている健康づくりポイント事業の状況は。

町民課長 応募者は令和3年度8名、4年度6名、5年度は12名が応募されている。

問 現在実施されている健康づくりポイント事業の状況は。

町民課長 応募者は令和3年度8名、4年度6名、5年度は12名が応募されている。



佐藤 毅 議員

Q 自治会活動の持続可能性の向上を！

A 継続と活性化に支援していく

問 自治組織活性化補助金はなぜ継続されない。

総務課長 3年間実施して、おおむねの整備等ができた。

問 コミュニティ活動補助等にも利用できたはずでは。

町長 スポーツ大会等、町全体で活性化していきたい。

問 自治会単位での備蓄品の整備は必要か。

町長 必要な物を備えて欲しい。

問 自主防災活動助成金の見直し、増額を考えていた。

町長 必要物を備えて欲しい。



後藤 六男 議員

Q 認知症対策の現状と今後の対応方針は！

A 関係課が協働し対策の推進を目指す

問 高齢者問題の認知症について、町として2025年問題、とりわけ団塊世代が後期高齢者になると認知症の方の割合が一気に上がってくる予測がある。

町長 昨年度、町で65歳以上の方に実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果、家族に認知症の症状がある人がいる家庭は13%で、今後増えることが予想される。

問 高齢者問題の認知症について、町として2025年問題、とりわけ団塊世代が後期高齢者になると認知症の方の割合が一気に上がってくる予測がある。

町長 昨年度、町で65歳以上の方に実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果、家族に認知症の症状がある人がいる家庭は13%で、今後増えることが予想される。

問 高齢者問題の認知症について、町として2025年問題、とりわけ団塊世代が後期高齢者になると認知症の方の割合が一気に上がってくる予測がある。

町長 昨年度、町で65歳以上の方に実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果、家族に認知症の症状がある人がいる家庭は13%で、今後増えることが予想される。

問 高齢者問題の認知症について、町として2025年問題、とりわけ団塊世代が後期高齢者になると認知症の方の割合が一気に上がってくる予測がある。

町長 昨年度、町で65歳以上の方に実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果、家族に認知症の症状がある人がいる家庭は13%で、今後増えることが予想される。



中学生向け「認知症サポーターステップアップ講座」

問 認知症等により、行方不明になる恐れのある高齢者を守るための取組は。

福祉課長 町では徘徊等で、行方不明になる恐れのある方を「高齢者等SOSネットワーク事業」により事前登録し、スピーディーに捜索可能にしている。





穴井 則之 議員

Q 里山の景観を守っていくには！

A 複数の対策を講じながら維持していく

問 永年里山の景観を維持してきたが、農林業の少子高齢、担い手不足、鳥獣被害等により遊休農地や耕作放棄地を多く目にするようになってきた。この町を訪れる人々を癒してきた里山の景観をどう守っていくのか。

町長 所有農地の貸付、売却希望申出書の運用を開始し、農地のマッチングアプリの導入を検討している。次にJAと連携し、今後の農地や施設の意向調査をし、新規就農支援につなげていく。



きよらカアサの特産品コーナー

問 農地の荒廃を最低限防ぐには、組織と景観作物・特産品等になりうる作付けが必要では。

町長 何かしらの付加価値をつけたりと農地利用の方向性を変えることも重要と思う。役場内にプロジェクトチームをつくることは可能では。

農林課長 農業委員会でも同様の意見がある。景観作物は多面的機能交付金が活用できるのでは。



遊休農地の現状

Q ふるさと納税の今後の活用法は？

A 町が発展するための事業に使っていく

町長 10月の制度改正以降も寄付単価を上げずにやってきたが、12月より順次謝礼品の寄付単価を増加させる改修を行っている。ふるさと納税の税額控除に改正がなされた訳ではないので、全国のふるさと納税総額が減少することは考えられない。より魅力的な謝礼品を提供できるよう、謝礼品提供事業者と連携し進めていく。

問 ふるさと納税の今後の活用法は。

町長 基金の目的に沿った活用法を基本とし、本町が発展するための事業を適宜選定して充当していく。

問 ふるさと納税のスマホを使ったワンストップ特例申請や自動販売機をカアサや黒川温泉旅館組合に設置するなどの推進方法は。

町長 情報を集め対応可能なものについては対応していく。楽天とのタイアップにより色んなノウハウをいただきながら考えていく。



北里 桂一 議員

Q 今後の下水道整備は？

A 地元の意向をまとめていただきたい

問 町簡易水道について今後、水道料金の値上げはあるのか。

町長 町簡易水道事業基本計画において水源の代替の必要性、水源の枯渇等多くの課題を解消するためにも、今後の検討が必要ではあるが現時点で値上げは考えていない。

問 大字満願寺地区の今後の下水道の計画があるのか。

町長 大字満願寺全体をするのか黒川地区だけにするのか。

問 協議もできておらず総合計画にも上がっていない。

問 黒川地区は観光の中心であり筑後川の最上流であり、環境・経済・社会の総合的な向上を目指すうえでも、下水道の整備の必要性があると思うが。

建設課長 来年からの総合計画に盛り込むのは難しい。今後地元自治会等でのまとまった考えをお示しいただき、協議し考えていきたい。



井野 和哉 議員

Q 人材育成のための施策の創生を！

A 自助・共助で困難な場合支援を検討する



「しごとコンビニ」説明会

問 町では人づくり事業の補助を行っているが実績は。

まちづくり課長 個人は無し、事業所が1件のみ。

問 もっと使い勝手のいい活用方法には。

町長 要件の緩和について、担当課と協議していく。

問 国の補助事業で農業を行っている若手がいると思うが、実績は。

農林課長 これまで12名、現在2名が利用している。

問 町としての取組は。

農林課長 町職員と県振興局の職員とが連携して、補

助事業が終了した若手農家の元へ出向き指導・支援を行っている。

問 町のために一人でも二人でも核になる子どもを育ててもらいたい。

教育長 「町の未来の担い手を育成する」これが町の教職員の間目標である。そのために、しっかりと学べるような取り組みを体験できるように取り組んでいく。

南小国町「日本で最も美しい村」づくり補助金（抜粋）

■人づくり事業

対象事業	対象者	補助金額等
①人材育成のための国内外での視察調査研究活動	南小国町内に住所を有する方や町内に所在する団体・グループ・自治会など	①国内 上限 25万円 国外 上限 50万円
②町内での人材育成に関する活動		②上限 200万円 ※いずれも一事業者1回限り

Q 著作権など権利に関する知識のアップデートを！

A 確認体制を確立し、研修や周知をする

問 昨今、インターネット上のイラストや写真の無断使用で、自治体が損害賠償を求められるケースが増えている。著作権などの権利確認はどうされているか。役場だけでなく町全体で知識のアップデートが必要では。

町長 広報やケーブルテレビの撮影は全て役場職員で行い、保育園や小中学校では掲載への意思確認をしている。しかし、掲載依頼された原稿画像の確認までは行っていない。今後は担当課局で確認体制を確立し、他課局でも周知徹底する。また、職員向けに研修等を実施し、画像の無断使用や著作権等の権利侵害を行わないよう取り組みたい。

まちづくり課長 自治体が情報を発信する際には、著作権等の権利保護など法令順守をきちんとしなければならぬ。町民へも周知したい。



森永 一美 議員

Q 事業継承にも夢チャレ[※]が使えないか？

A 要件緩和も想定したい

問 町商工会のアンケート調査によると、回答者のうち「後継者が決まっていない」と答えた割合は60%だった。近い将来、町内でも事業継承は待たなしの状態になると思われる。地域経済の継続的発展のためにも、町として何かしら打ち手を用意する必要があるのでは。夢チャレは現在、起業のみだが、事業継承にも使えるようにならないか。

町長 商工会からも要望が出ている。関係課と協議し、

問 夢チャレの要件緩和も想定したい。

町長 他の地域では、事業譲渡したい方等の情報を載せた「継業バンク」という取り組みや、事業の継業を目的とした「継業型地域おこし協力隊」を募集されている。同様の取組が本町でもできないか。

町長 先進事例を集めて参考にし、南小国独自の形にするのも大切。調べていく。

※夢チャレ：「南小国町夢チャレンジ推進事業補助金」の略

Q 次世代ネットワークや災害に強い庁舎への取組強化を！



穴井 秀房 議員

A 次の契約に向けて、様々な可能性を探る

問 町のインターネット会社を設置して5年になる。現在の契約ではスピードの遅さ等があり、また電柱に共架した有線のため、今後発生が予想される大規模災害時には、電線の切断が多発し町民への情報提供ができなくなる。

今、様々な形態の衛星通信サービスが生まれていると思うが、次の契約に向けた検討を始める時期ではないか。さらに災害対応には十分な電力が必要となるが

町長 インターネット会社等には非常用発電装置しかなく長時間の対応はできない状況となっている。庁舎に太陽光発電と蓄電池を導入し、災害に強い庁舎とすべきでは。

町長 ネットワーク環境については大規模災害時には機能しない懸念があり、現契約が切れる一年前までに様々な可能性を踏まえ決定したい。太陽光発電施設については前向きに検討する。

Q TSMCの進出による効果を阿蘇郡市にも求められないか？

A 阿蘇郡市共同で熊本県に要望する

問 TSMCが進出し菊陽町周辺の市町はいろいろと恩恵が出ている。阿蘇郡市には観光としてのメリットはあると思えるものの、他には交通渋滞がひどくなるばかりである。

さらに、周辺地の交通渋滞の解消に県の予算が集中されるため、本来県民全体になされるべきサービスは減少する。TSMCの進出に欠かせない伏流水は主に阿蘇郡市の住民によってつ

くられる自然環境である。この際阿蘇郡市一体となし、TSMCの進出に欠かせない水の生産地として、水の継続的な生産活動を続けるための支援を国・県に求めていただきたい。

町長 TSMCの進出は観光客の増加等が見込まれるものの、地下水等への影響も考えられる。阿蘇郡市で足並みをそろえて県に対して要望する。

令和5年・6年 議会日誌

11月	1~2	阿蘇市町村議長会正副議長・事務局長視察研修会	
	6~8	経済建設常任委員会研修会	
	10	熊本県町村議会広報研修会	(写真①)
	15~16	総務文教常任委員会研修会	
	19	第18回すぎのこまつり	
	24	令和5年第5回臨時会	
	24	総務文教・経済建設 常任委員会	
12月	28~30	第67回町村議会議長全国大会	
	3	きよら人権デー	
	5	議会運営委員会	
	12~14	令和5年第4回定例会	
	13	みらい南小国子ども会議	(写真②)
	14	合同常任委員会・全員協議会	
	15	議会広報調査対策特別委員会	
1月	20	小国公立病院議会	
	25	阿蘇広域議会定例会	
	3	二十歳を祝う会	
	6	消防団出初式	
	10	阿蘇市町村議長会総会	(写真③)
	11	立志式	
	16	総務文教常任委員会	
	19	議会広報調査対策特別委員会	
2月	19	令和6年第1回臨時会	
	23	第2回熊本県町村議会議員研修会	
	26	議会広報調査対策特別委員会	



写真①



写真②



写真③

総務文教常任委員会

研修報告 副委員長 佐藤 毅

「今あるものを大切に、丁寧に生きる村へ」

山梨県小菅村

令和5年11月15・16日で視察研修を行った。人口650人弱、森林率95%の村である。そこにはドローンを使った新しいスマート物流サービスが存在していた。商品カタログを用意しての、買い物代行サービスにも取り組まれていた。民間事業者と連携を図り、住民サービスにおいて不便を感じさせない取り組みが行われていた。今後も大手配送業者と連携し、地域内宅配も代行する予定である。また第三セクターの「株式会社源」では、村づくり会社として、温泉施設・道の駅・フォレストアドベンチャー等の観光施設運営・ポイントカード運営・イベント等の開催・関係人口創出のための各種施策実施といった多岐にわたる事業を行い、こ・すげ～村づくりが行われていた。無理してオリジナリティを出そうとするのではなく、あるものを有効活用して持続可能な地域を作っていくことを理想としていた。



ドローンの説明を受ける様子

小国郷公立病院組合議会

令和5年12月20日

令和5年第3回定例会が行われた。令和5年度病院事業会計に、へき地医療拠点病院として必要な1063万円の機器備品購入のための補正予算と職員の給与条例の一部改正の議案が提出された。審議の結果、可決承認された。



導入される移動診療車

移動診療車の運行開始

昨年から準備を進めてきた「小国郷医療 MaaS プロジェクト」いよいよ始まる。

当初は隔週火曜日と木曜日、中原地区・元気プラザと黒川地区・べっちゃん館で移動診療車による遠隔診療が開始される。小国公立病院とサテライト診療所の利用者が対象で、予約制で行われる。通院が容易ではない利用者への新たな取り組み、巡回型オンライン診療車の導入。町内では最初2箇所からのスタートだが、環境や条件が整えば、診療場所は増えていく。高齢化が進むこの小国郷において、住民の負担軽減と医療サービスの安定提供実現に向けて、小国公立病院の取り組みに期待する。

経済建設常任委員会

研修報告 委員長 穴井 秀房

経済建設常任委員会では昨年11月6日～11月8日に福井県の池田町農業公社と長野県水産試験場の視察研修に行ってきました。

～福井県池田町 “農業公社”～

池田町は福井県の中山間地の豪雪地帯にある人口2200人程の町です。農林業を守るという強い信念の基で農業公社が運営され、町の維持に重要な役割を果たしています。

農業公社の運営は町の農業を中心に展開を図っています。耕作放棄された農地を、請負・耕作をすることで町を荒らさないということが基本的な考えとのことです。

老若男女が農業に参画し、それぞれに活躍されています。

また町で発生する生ゴミや畜産糞尿等を材料に有機肥料の生産販売もしており、環境にも配慮出来ています。林業や子育て・高齢者福祉・地域交通等にも公社が参画しており、農業公社が深く池田町に根付いていることを感じました。

公社は「農家であり農協であり森林組合であり役場である」との副町長の言葉に「農業の未来を見た」そんな池田町でした。



公社職員から説明を受ける様子

～長野県水産試験場 “信州サーモン”～

長野県では日本アルプスからの伏流水を活かしてマスやイワナの養殖を行っている県水産試験場で研修を行いました。

魚卵に圧力や熱をかけて無産卵マスを作り出すことに成功し、「信州サーモン」として人気を博しているとのことです。南小国町の良質な水を使った内水面特産物について、今後も研修していきたいと思っています。



長野県水産試験場

2泊3日の行程で熊本から空路大阪空港に飛び福井県から長野県へと陸路で移動し、名古屋（小牧）空港から熊本に帰ってきました。少々足腰の衰えを感じましたが、大変実りある研修でした。

さとう けいた
佐藤 圭太さん

〈子どもデイサービス〉は今年で20周年！
長期休暇中、安心して過ごせる居場所を提供



プロフィール

扇生まれ、扇在住2児のパパ。南小国中、昭和学園高校を卒業後、南小国町社会福祉協議会に入社し現在19年目。子どもデイサービスやふれあいサロン、相談支援や広報など幅広い業務を担当。

…子どもデイサービスを始められた経緯を教えてください

地域の子育て世帯から「長期休みに子どもを預けることがない」との声を受け、町の子育てを応援できたらとの思いで、子育てボランティアさん達と一緒に子どもデイサービスを始めました。その後、中学生や民生委員・児童委員さんなどにも声をかけ、多くの方にサポートいただきながら運営しています。

…実際に子どもデイサービスに携わってみて、いかがですか？

大変なことも楽しいこともたくさんあります。子ども達に怪我なく過ごしてもらうために、安全対策は特に気をつけています。利用する子ども人数に合わせて、日毎にボランティアさんの人数も調整し、目が行き届くようにしています。



この日は子どもデイサービス利用の小学生が20名、ボランティアさんは9名。

…今後についてはいかがですか？

また、子ども達が楽しく過ごせるように様々なイベントも企画しています。夏休みには、羊毛フェルトづくりや石こう体験、川遊びなど幅広いメニューを用意しました。自分が企画したことを実際に子ども達が体験して楽しんでくれる姿を見るのは、一番嬉しくてやりがいを感じます。

デイサービスを利用していた子が中高生になり、ボランティアで手伝いに来てくれるのも嬉しくて有難いです。

…今後についてはいかがですか？

今一番の課題はボランティアさんの成り手不足です。子どもデイサービスはボランティアさんがいるからこそ運営できています。今後の運営に影響が出ないよう、ボランティア募集を広報誌や知人にも呼びかけています。興味のある方は1日だけでもお手伝いいただけるとう助かります。

取材・撮影・文：森永一美



小学生も大人もみんなで楽しめるようにと体育館でモルック大会を開催。

編集後記

令和6年は能登半島地震、航空機事故、北九州の大火災と大変な幕開けとなりました。被災された皆様にはお見舞い申し上げます。本町も、いついかなる時でも瞬時に対応できる即応体制の確立した組織を目指してまいります。

令和5年には新型コロナウイルス感染症の分類も5類となり、スポーツ界ではWB Cでの世界制覇に湧き、バスケットボール男子はパリオリンピックの出場権を獲得し大いに盛り上がりました。

経済界においてはインボイス制度の導入、終盤には政界でも自民党のパーティー券の問題等が浮上し、めまぐるしく様々な活動が再開された1年であったようです。

改選後3回の定例会を経て、12月の定例会では一問一答方式と反問権の行使が採用され、より深まった議論が展開されること期待されましたが、そこまでの議論はなされなかったように思います。

今後、次世代につなげるために本町の未来予想図を描いていかなければならない時期に来ている今、町の発展の為に二元代表制である意義をさらに深めることが望ましいように思います。

発行責任者

議長 井上 則臣

広報調査対策特別委員会

委員長 森永 一美

副委員長 井野 和哉

委員 穴井 秀房

委員 北里 桂一